

“会議の魅力”を再発見できるかも

『審議会の不思議』の政治学 ～会議の魔力・会議の魅力～

医療福祉ジャーナリズム分野 修士1年 今岡 康子

会議そのものの“運び”について、今まで考えたことはなかった。

会議そのものよりも、議題について考えるということが当たり前になっていた。森田先生のお話を聞き、「言われてみれば確かにその通り」だと思った。

看護学校でも、やたらと会議が多い。時間が長いわりに、結論が出ない。まとまらない。全教員での会議はいつも同じパターンになっている。

議題だけ出して、案もなく丸投げで、白紙から作り上げなければならないこともある。それにかかる時間も労力も膨大で、タイムオーバーになる。そしてまた来年に繰り越される。

迷宮入りになることもある。

1つの議題に対して、満場一致で決まるというのが1番望ましいのだろうが、実際にはそう簡単には決まらない。「学生のため」という物差しで考えていけばいいのだろうが、実際には自分の思いや都合、私利私欲といった、様々な思惑があるから、余計にややこしくなり意見が一致しないことになる。

“お作法”も確かに存在している。出席者にも様々なタイプがいることも、「いるいる。そんな人」と思い、聞いた。

思いつきで発言する人。自分の以前勤務していたところの自慢話を引き合いに出す人。前回の会議で発言した内容がコロコロ変わる人。まったく発言しない人。会議で決まったことを無視して自分の考えをいつのまにかこっそり勝手に実行している人。(何のための会議だ!!!)

そうすると、会議をうまく取りまとめる、座長(議長)も調整能力に長けた人が望ましいということがわかった。この取りまとめ役が、もしも、プライドとメンツで生きている人だと…。

会議で路頭に迷う理由がわかるような気がした。

自分はこういったタイプかと考えた時に、正論で攻めてしまうのかなと思った。

自分の傾向が見えてきた。これからは、ホンネとタテマエを使い分けることや、「顔」を潰さないよう相手の「顔」を立てること、正論だけでは、通用しないこと、“気分を害さない配慮”も必要だということ。

エビデンスを証明するためにデータを使うときにしても、どんなデータを使うかで、都合のいい内容に上げることができる。議論の対象が、人である場合、この現象について議論することは、もしかしたら白黒明確に分けられるものではなく、だからこそ、時には妥協も必要なのかもと思った。

色んな考え方を持った人と、うまくまとめていくためにも、いい意味での「世渡り上手」になれるよう、「議論のワザ」を思い出して、今度から気を付けて議論しようと思った。

会議は面倒くさい。でも、概観してみることで、面白い、“会議の魔力”とはいかなくても“会議の魅力”は再発見できるかもと思った。